

吉野林業復興へ連携

発展させる会 産地と消費地結ぶ

吉野地域の林業を中心とした復興を目指す「吉野の地域産業を発展させる会（仮称）」の発足説明会が四日、大淀町榎垣本の町文化会館小ホールであり、林業関係者や賛同企業の担当者、地元三町長ら約六十人が参加した。山村と都市、生産地と消費地をつなぐ試みとして注目される。

まず情報共有

マーケティング会社のハートツリー（東京都、服部進社長）は企業や事業所と提携して全国に植樹を行うプロジェクトを推進している。特に吉野地域については「吉野ハート」プロジェクトとして、森の再生へ取り組んでいる。

今回、林業復興と森林再生を目指し、地元の林業、製菓業三社の社長と服部社長の四人が発起人となって地元の登録業者を募集。流通やメーカー、外食産業などの賛同企業と来月から情報の交流を始め、来年四月に民間非営利団体（NPO）設立、五月に設立総会を目指す。

日本たばこ産業（JTI）や大塚製薬で勤務してきた

服部社長は「私はマーケティングの人間で環境については素人。しかし商品を知り、PRする方法は分かっている。日本を元気にするため、木から日本を考えたい」と話している。

吉野はブランド要素が「満載」と話し、情報の共有、原材料の安定供給、製造（加工）の依頼の三点が重要だとした。

賛同する製菓、外食産業のキンレイ（大阪市）やコンビニのローソン（東京都）などの担当者はこれまでの活動事例を報告。

生駒市在住の森林ジャーナリスト、田中淳夫さんは

「ニーズをみて、販売する努力が必要。世界的には木材需要は多い」と基調講演した。

参加した東奈良男下町町長は「木がためだと吉野はやっていけない。会の発展に期待し、できるだけ協力をしたい」と話していた。

問い合わせはハートツリー、電話03（6403）5399。